

会 議 録

1 会議名

令和6年度第1回上越市食育推進会議

2 議事（公開・非公開の別）

- (1) 令和5年度の食育推進事業（アクションプラン）確定値等について（公開）
- (2) 意見交換（公開）

3 開催日時

令和6年10月2日（水）午後3時から5時

4 開催場所

上越市役所第一庁舎 401 会議室

5 傍聴人の数

0名

6 出席者氏名（敬称略、傍聴人を除く。）

- ・ 委 員：羽尾委員、光永委員、佐藤（寛）委員、井部委員、清水委員、秦野委員、金子委員、古岩委員、信田委員、丸田委員、松井委員、佐藤（誠）委員
- ・ 事務局：農政課：佐藤課長、伊藤副課長、野村係長、中村主任
健康づくり推進課：大石上席栄養士長、幼児保育課：伊倉副課長
上越ものづくり振興センター：木南副所長、農村振興課：佐藤副課長
教育総務課：岩野副課長、学校教育課：古川副課長、社会教育課：竹内副課長

7 発言の内容

（1）開会

【事務局：伊藤副課長】

- ・ 上越市食育推進会議規則第2条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認し、会議の成立を報告。

【事務局：佐藤課長】

- ・ この度の上越市食育推進会議委員の任期満了に伴い、新たに、皆様から快く委員をお引き受けいただき感謝申し上げます。皆様には2年間、市の食育を推進していくために、それぞれのお立場からのご意見、ご助言をお願いしたい。
- ・ 食育は一生涯にわたって健全な食生活の実現、心身の健康増進、豊かな人間性の形成に寄与するものであり、これまでの食育推進の取組の成果として、学校

や保育園現場における食育が充実するなど、一定の進展が見られたが、食をめぐる課題を大きく見れば、全国での課題と同様に、食生活の乱れや朝食の欠食などが当市でも散見されている。

- ・ 市としては、これまで以上に食育推進活動を充実させ、食育が地域に根差し、継続的な活動として定着させていくことが重要と考え、令和4年3月に策定した第4次上越市食育推進計画では、食育の「実践の環を広げる」ことをキーワードとしている。
- ・ 本日は、上越市食育推進実施計画アクションプランの進捗状況はもとより、食育の推進に関し、忌憚のないご意見を頂戴し、食育活動を実践されている皆様とともに、上越市の食育を更に推進していきたいと考えている。

(2) 委嘱状交付

- ・ 委員を代表し、羽尾和久委員に佐藤農林水産部長が委嘱状を交付。任期は令和6年7月26日から2年間であることを確認

【事務局：伊藤副課長】

- ・ 委員の所属と名前を紹介
- ・ 市食育推進担当課を紹介

(3) 会長選出

【事務局：伊藤副課長】

- ・ 次第の「3 会長選出」である。上越市食育推進条例第7条第4項により「推進会議に会長を置き、委員の互選により定める」こととなっている。今回は、事務局の案として、会長には光永伸一郎委員にお願いできればと考えている。皆様、ご賛同いただけるか。

(異議なし)

- ・ 会長は光永伸一郎委員に決定した。
- ・ 上越市食育推進会議規則第2条第1項では、「会長が議長となる」とあることから、光永会長に議長を務めていただきたい。

(4) 議事

- ①令和5年度の食育推進事業（アクションプラン）確定値等について

【光永会長】

- ・ しばらくの間、議長を務めさせていただく。初めに、「4 議事(1) 令和5年度の食育推進事業（アクションプラン）確定値等について」、事務局から説明願いたい。

【事務局：野村係長】

- ・ 資料No.1、資料2-2に基づき説明（説明省略）

【光永会長】

- ・ 今ほど事務局から説明があったが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。

【清水委員】

- ・ 朝食を欠食する市民を減らしていくというところの若い世代の欠食や、朝時間がないということに関しては、おそらく生活習慣が影響しているのだろう。
- ・ 私の意見としては、例えば、子どもに対しては就寝する時間を少し意識することなどの取組を続けていくのがいいのではないか。

【事務局：佐藤課長】

- ・ 私も、全くそのように思う。すでに自分の子どもは独立しているが、朝食が朝6時だったので、その分早く寝ないと、朝どうしても起きられないことがあった。今の世代だと、スマホの動画などを夜遅くまで見ることによって、朝起きられないということもあると思うので、家庭が中心になるかもしれないが、生活リズムという点は本当に注意が必要と思う。

【清水委員】

- ・ どういったアプローチをかけていけば、就寝時間を早くして、朝早く起きることを増やしていくことができるのかということは考えていかなければならない。

【学校教育課：古川副課長】

- ・ 当課では、欠食に対しては生活習慣ということで、学校ごとに学校保健委員会を作り、生活習慣の改善に向けて取り組んでいる。
- ・ その中でも、やはり就寝時間についてはメディアコントロールが重要になってきており、そういう教育もしながら、早く寝るようにという取組を進めている。本日のご意見を課の中で共有したい。

【松井委員】

- ・ 前回の会議の中で、朝食については貧困によるものも、あるかもしれないとい

うことで、意見に上がったが、その後の調査などの状況はどうか。

【事務局：伊藤副課長】

- ・ 庁内の関係課に確認したところ、いくつかの食事に関する支援策があった。
- ・ 例えば、放課後児童クラブで、お弁当の配食サービスというものがあり、長期休暇に限る話ではあるが、あらかじめ希望をした児童にお弁当の会社から昼食が届くということをおっせんするような形で取り組まれている。また、就学援助制度の中で、学校給食費に関しては一定の支援がされている。
- ・ 前回は、高校生のアンケートの話もあったかと思うが、令和6年10月から児童手当の制度が改正され、高校生年代も対象になるという拡充があるなど、今後も、必要な支援については検討されていくのではないかと考えている。

【松井委員】

- ・ 私の所属するスポーツクラブでは、100キロマラソンに向けて非常に燃えているところであり、一生懸命ボランティアをしているところであるが、市外から来る方がどれだけ上越市にいろいろなものにお金をつぎ込んでくれているかということを見ると、なぜ地産地消推進キャンペーンは10月15日からなのかと思う。10月12日からにしてもらえれば、これを見て、「じゃあ、これ応募しようか」となったと思うが、その辺りの調整はできなかったか。

【事務局：佐藤課長】

- ・ おっしゃる通りで、市役所として足りないところだと思う。地産地消推進キャンペーンは、観光などで市外から来られた方からの応募もそれなりの件数があるので、市外の人からも積極的に上越の食に触れていただくためには、そういった機会を逃さないようにすることが大切だと思う。そういったところもアンテナを張りながら事業を進めていきたい。

【佐藤（誠）委員】

- ・ 資料1の中で、朝食を欠食する市民の割合が小学生、中学生から高校生になると悪化しているという報告があった。
- ・ 委員の皆さんの中には、保育園の園長先生のほか、普段学校の給食調理の部分でお力を尽くしていただいている方もいらっしゃるのですが、それぞれのお立場で、お子さんをご覧になり、最近気になること、あるいは逆に、ちゃんと食事をとることでこんないい影響があるというような話を聞かせていただきたい。

- ・ アンケートで、実際に幼児、児童、生徒のお子さんたちが、体にどういう影響があるかという事はすごく懸念をされていて、3月の資料では食育への関心がある理由として一番高かったのが、子どもの心身の健全な発達、発育に必要なことからであり、食育に関心がある親は関心があるところだと思う。そういったところがしっかりと親に伝わることで、先ほど清水委員がおっしゃられたように、早く寝て早く食べようねという意識改革になっていくのではないかなと思う。
- ・ 今それぞれの現場で起きていることで、何か会議の中で参考になるようなことがあればお聞かせいただき、勉強させていただきたい。

【佐藤（寛）委員】

- ・ 保育園では、1歳、2歳児の保護者の方に向けて、毎年、健康教育講座というのを行っており、その中で生活リズムや食事について、市の保健師や栄養士の方からお話をいただいている。
- ・ それが保護者の方たちの中に意識として根付いていて、生活リズムにも気をつけ、朝食もパン1つでも食べてきているお子さんがほとんどだと思っている。日中の活動もよく遊んでいるが、少し気になる点は、食に関心がないのではないかなというところである。給食の時間にお腹すいているようでも、食べ進みが悪い子や好き嫌が多いお子さんが多いと感じている。
- ・ 理由を考えたときに、帰ってからもご家庭で忙しくされていて、保育園でおやつを食べ、家に帰ってからもおやつのようなものを食べてしまい、夕食の時間にお腹がすいた感覚がなく、食事をとっているのではないかと。それに加え、食材も子どもたちの好きなものを与えているのではないかと考えている。
- ・ 保育園の現場でたくさん遊ぶ中で、「お腹がすいた」と言って食べるが増えるので、無理しないで、子どもたちの様子に合わせながら、毎日、食事の中でしているところである。

【丸田委員】

- ・ 普段、春日小学校に勤めているが、子どもと話をすると、朝ご飯を食べてこなかったとニコニコと教えてくれる子や、早く起きることができなくて食べなかったという子、用意してあっても食べなかった子もいれば、お母さんが準備していないご家庭もあり、家庭の状況はいろいろである。
- ・ ただ、やはり子どもの成長にとって、朝食を食べることは大事なことで、春日小学校でも、メディアコントロールなどと一緒に、「早寝早起き、朝ご飯、

学習頑張ろう」という習慣を設けている。

- ・ 今年9月の初めには、3年生のクラスで栄養士と栄養教諭、養護教諭が授業に入り、生活習慣はとても大事だという話をした。
- ・ また、4年生ではPTC（親子活動）のときに、「朝ご飯はどんな物を食べてきていますか？」とか、「こんな物を食べるとバランスが良い」という話もしている。さらに、給食だよりや保健だよりなどで毎月の啓発も行っている。

【信田委員】

- ・ 本業は飲食店だが、上越学園、たちばな認定こども園の栄養士をしている。
- ・ 給食だよりも毎月書いているのだが、娘が認定こども園に通っており、娘は当然朝ご飯食べさせているが、娘の友達の子が、舌が青かったことを先生に報告した。先生がその子に聞いたところ、娘の話によると、その子の朝ご飯はグミだったということだった。そのお母さんに、なぜグミを食べさせたのかと尋ねたところ、彼が勝手に食べただけで、私は知りませんでしたということだった。親御さんに朝食を食べるのかと聞くと、私たちはあまり食べないので、子どもには菓子パンを置いてあると言っていた。お子さんは、食べたくなければ食べないし、食べたいときは食べるという話だった。
- ・ 親御さんは食べないことが悪いこととは思っていなかったが、私は栄養士として、できれば朝ご飯を食べた方が良くとお話しした。特に朝ご飯を食べておくとお腹が空かないし、お昼の前にお腹が空くとかわいそうだし、年少さんなど小さいお子さんではそれが原因で泣いたり、子ども同士でけんかしたりすることがあるので、朝ご飯は食べた方が良く言ったら、「そうなんですね」と笑顔で答えていただき、今後はおにぎりぐらい作ってあげようかなと言っていた。
- ・ また、高田農業高校で非常勤講師をしていて、食品の授業を3教科担当している。3年生の中で昼食を持ってこない子を生徒同士で心配し、学校の外に出て買えないので、どうしたらいいのかという質問があった。
- ・ 3年生が自分たちで考え、昼食をなぜ持ってこないのか、朝ご飯は食べているのかということ調査内容に含め、アンケートを取った。高校生の認識としては、お弁当を作ってもらえない場合には買わなければならない、購買でパンを買ったりして、何とかすると言っていた。学校は食品を勉強する場所なので、それなりに食事の大切さは理解しているが、彼らの話からすると、親御さんが理解していないのではないかと感じた。

- ・ こども園も高田農業高校の3年生の調査にも同じことが言えるが、親御さんに対する教育というか、考え方を丁寧にお伝えするのが一番ではないかと最近思っている。

【佐藤（誠）委員】

- ・ 社会情勢が変わり核家族化が進むと、信田委員のお話のように若い世代が情報を持っていない場合があるので、しっかり情報を伝えなければならない。また、それを理解していても、様々な事情で提供できないこともあるだろう。
- ・ 貧困や、親が子どもに対し朝食の大切さを理解していないなど、朝食1つを取っても様々な問題が存在していると感じた。
- ・ これからは、2世代、3世代、4世代で暮らす時代が戻ってくることはないと思われるので、若い世代や結婚して子育てをする方たちにどうアプローチするかが、一番大切ではないか。
- ・ 私のように60歳近くになると自分の健康が心配なので、誰に言われることもなく食べ物に気をつける。いつも食品の裏を見て、カタカナの何か聞いたことのないものが入っていれば買わないようにするなどの自己防衛もある。しかし、若い人たちに情報をしっかりと伝えることが、この仕組みの中では重要な取組であると感じながらお話を聞かせていただいた。
- ・ こういう機会は、私どもが政策を行う上で非常に参考になるので、様々な場面でまた、お話をお聞きできればと思う。

【光永会長】

- ・ 先に出たのは、朝ご飯の欠食率の話で、今、5名の方にいろいろご意見をいただいたが、欠食率が下がらない理由とは何か、いくつか考えられると思うが、それに対する対策として、もし欠食率を下げたいのであれば、今、皆さんに言ってもらった意見は、すべてその辺りのヒントになるかと思う。
- ・ もし、市として真剣に取り組んでいくのであれば、打つ手はいろいろあるのではないかと思う。具体的に行っていけば、少しは変化も期待できる。
- ・ 私は大学に入るまで朝ご飯を食べたことがなかったのだが、ものすごく後悔しており、現在は朝ご飯を食べた方がいいと思っている。食べる子と食べない子では、体調もいろいろ違うので難しいと思うが、お腹が元気でないと気持ちも元気にならない。これは、科学的にも腸内細菌のバランスと脳の相関関係があるのではないかとされている。

- ・ 皆さんの先ほどの意見は、結局、腸内の環境を良くすることに繋がる。腸内環境が良くなれば気持ちも良くなり、喧嘩などの行動も減る可能性があると思う。
- ・ 少しでも学校のいろいろな問題の改善に繋がればいいと考えているので、朝ご飯を食べることの重要性を小学生や高校生に理解できるように説明し、それが最終的には鬱やその他の病気に関わってくることを伝えるのも良い。腸内環境はお腹だけの問題ではなく、お腹が健康であれば気持ちも健康になるのではないかと考えている。

② 意見交換

【光永会長】

- ・ 「5 意見交換」に移る。事務局から説明をお願いしたい。

【事務局：野村係長】

- ・ 本日は、委員改選後、初めての会議となるので、委員の皆様の思い、活動を知っていただくという意味からも、皆様が携わっている食に関する活動や日常生活において感じておられることについて、発言いただき、今後の食育推進事業の参考とさせていただきたい。そのため、事務局から令和5年度の市民アンケート結果を分析し、今後の取組の方向性を示したので、意見交換の参考になればと思い、まず説明をさせていただく。
- ・ 資料No.3に基づき説明（説明省略）

【光永会長】

- ・ 今ほど事務局から説明があったが、本会議は、委員の皆さまから様々な意見をいただき、今後の食育推進事業の参考にしたいとのことなので、ぜひ、皆様から自己紹介を含めて、ご発言いただければと思う。1人あたり3分程度を目安にご発言をいただきたい。
- ・ 名簿の一番上の羽尾委員からお願いしたい。

【羽尾委員】

- ・ まとめのアンケートからの分析ということで、引き続き最後のページになるが、食育の関心度の低下に関することである。子どもの心身の健全な発育が必要ということで理解している方は心配ないのだが、関心がない、あまり食に積極的ではない方たちへの参加と理解をどう促進するかが重要であると考えている。

- ・ また、私は病院を開業しているので、食事に関して言うと、朝食を食べないことで、血糖値の上昇に違いが出ることを述べたい。3食食べる方と2食食べる方では、血糖値の上昇が異なり、1日2回の方は血糖値の上昇が激しい。その結果として、体に負荷がかかり、動脈硬化が進行しやすく、糖尿病のリスクも高まる。そういった医学的な部分からも積極的に話をしていただければと思う。
- ・ あと、100キロマラソンで松井委員からお話があったが、私もスポーツが好きで、いろいろな大会に出場している。この間、村上に行ったのだが、ゴールしたときのブースで村上牛、お茶、お米などがアピールされ、いろいろなものを食べることができた。そのような大会を盛り上げる意味でも、無料で何か食事を提供するとか、上越の美味しいものをもっとアピールすることが良いのではないかと思う。

【佐藤（寛）委員】

- ・ 先ほどから子どもの心身の健全な発育が必要だということが話し合われているが、現在、本当に子ども主体の保育が重要であり、子どもが自発的に遊ぶこと、自分から関与することを大切にした保育を進めている。
- ・ 食育については、月に1度の食育集会のほか、日々の生活や遊びの中で食育を意識しながら行っている。子どもが自発的にたくさん遊んで、「お腹がすいた」という感覚を持つようにし、保育園の給食で、いろんな味や食材、献立を提供し、先生や子どもたちが「おいしいね」と言って食べることが、一番の食育ではないかと考えている。
- ・ それを、今度は保護者に伝える努力を一生懸命行わなければならないと考えている。先ほどの朝食、欠食についても、私たちは「早寝早起き、朝ご飯」という合言葉を園だよりや食育便りなどで発信しているが、もっと積極的に発信していかなければならないと感じた。

【井部委員】

- ・ 私は食の仕事をしており、食育に取り組みたいということがきっかけで食の世界に入った。食育自体は、会社員として食育を行ってきたものと、市民活動として食の団体で行ってきたものを含めて、20年ぐらいやってきた。
- ・ 中でも大切だと思っていることが、今回のアンケート結果の19ページと21ページにある地域の食材や旬のもの、地域の食文化である。特に20代はこの点が低く、地元の食や旬のものをあまり気につけない方が多いことに驚いた。

- ・ 21 ページの地域の食文化も令和 5 年にはだいぶ上がってきているが、地域の食文化、伝統食、郷土料理にあまり興味のない人が多いと思った。また、20 代以外のところは逆に下がっていることもグラフで見受けられるので、これでは食文化の継承が難しいのではないかと感じ、何かできることはないかと考えた。
- ・ 食育の一番の基本となるのは、先祖代々、体を作ってきた地元の食と食文化であると考えている。普段から私が取り組んでいる郷土料理には、いろいろと定義があるが、やはり学問的には、明治以前からの食、遺伝子単位というのか、先祖代々体を作ってきたそのものを食べて、戦争の時代も乗り越えてきた。みんなが健康で、現在を迎えられたのは、この大昔からの食、この地域の食材のおかげである。在来種とか、たくさんあるが、上越野菜なども上越で取り組んでいるので、こういったものがもっと市民に広がると良いと思う。
- ・ また、先ほど朝ご飯の話があったが、小学校で栽培した作物を使って、料理を作りたいという依頼で講師として呼ばれることがある。その中で、やはり、朝ご飯の話が出て、おうちで朝ご飯を作ってもらえない子どももいるので、子どもでも朝ご飯として作れるメニューを教えて欲しいという課題をいただいたことが何度かあった。実際、オープンオムレツやカップに入れてレンジでできるものなどを作った。食育として必要なことかもしれないが、私の中ではこれで良かったのかと疑問に思うことがある。何度も朝ご飯になるものを作ったが、自分の中でまだじっくりこない部分がある。
- ・ 普段、謙信キッズなどで、お味噌や醤油などの発酵食品の講座を行っているが、子どもたちに昔から上杉謙信が推奨した味噌づくりだと話すと、ただ味噌を作るのではなく、とても興味を持ってくれる。食育と昔ながらの歴史、郷土料理は日本の歴史そのものであり、上越の歴史、そういったストーリー性のある部分を、ぜひ子どもたちに伝えてほしい。絵本や紙芝居など、いろいろな方法があると思うので、頭に入りやすい方法で工夫していただけたら嬉しい。

【光永会長】

- ・ 主に食文化のことや、学校でのご経験などをお話いただいたが、今のお話を聞いて、何か聞いてみたいことはあるか。

【信田委員】

- ・ 高校の食文化の授業における教科書の内容について少しお話したい。
- ・ 日本での家庭科関連の教科書における食の内容は大きく分けて5つの分野(「食

生活」「栄養」「郷土料理」「伝統的な食文化」「食文化概論」)であるが、その中で食文化をどう継承していくのかという課題では、必ず調理師が継承すると書かれている。

- ・ 現在では家庭内での継承は難しいと書かれているものが多く、私が学校で使用している教科書にも同じように調理師が継承するべきだと書かれている。
- ・ 私は、地元のレシピ遺産という本を出版しており、山口ユキさんという方のレシピを文化の遺産として承継したいと考え、10年ほど通い、メニューを全てレシピ化し、写真を撮って、出版した。
- ・ それにより、多くの講演をさせていただく機会が増え、全国で講演を行うことが多くなっている。講演の依頼は学校だけでなく、経済同友会やロータリークラブなどの社会性の高い会社や経営者の団体からも多くなっている。そちらでもお話するが、やはり食文化について地域に意識を持っている方は多くいるが、意識を持ったところで何も動きがないのではないかとすることは井部委員のおっしゃる通りである。難しい中でどうしたらよいかと思い、本を出した。
- ・ 上越市にお願いしたいのは、やはりその意識を持ったときに、受け入れる場所を用意していただきたい。教科書には調理師が継承するべきだと書いてあるので、直江津、高田、春日山の流通エリアの飲食店が多いところで、メニューに郷土料理的なものを取り入れるとか、そういう食材を使うことを考えるとよい。また、郷土料理に使う郷土野菜や山菜に対する認識を高める講座を開くなどの周知活動を行うことで、地産地消の推進に郷土料理の分野を取り入れることができる。個人的な趣味で営業している飲食店も多いが、もう少し文化を承継しているような、上越市や新潟県単位での食文化の承継を上越市が発信していくべきである。私も講演に呼ばれる日本海側のエリアが多いが、やはり郷土料理の本を読んだときに、食材が共通していると思うことがあるので、その地域ごとに問題があるならば、調理師が承継し、それを市側で受け入れる先を用意することで、この発展も期待できると思う。井部委員のお話は、非常に興味深かったので、コメントさせていただいた。

【光永会長】

- ・ その通りである。学校がやらなければいけないような状況になって、家では駄目だというお話はその通りである。高等学校の方についても注視されると、小学校の家庭科の教科書にも、味噌だけは載っているが、3種類の味噌が、小学

校の先生になる人たちは誰も教えることができない。上越の味噌がどういう味噌なのかもわからないので、謙信キッズをやらなければいけない状況に陥っているが、大学はそういったところも、市と何か関わって、プッシュしていくことができるのではないかと前々から思っていたので、よろしくお願ひしたい。

【清水委員】

- ・ 公募市民の清水と申します。私、管理栄養士の免許を持っている。現在はオンラインで、特定保健指導の業務と、北城にある情報ビジネス専門学校で、講師をしている。
- ・ 子どもの食と栄養という授業を現在持ち、多様な資格を活かして教えている。関東で色々な職業を経験したときに、やはり食が一番大事だと思った。食事が一番その人の体をつくる土台になると感じ、今の仕事をしながら食育の仕事ができればと思い、今回、応募した。
- ・ 食文化や地産地消について、今、SNSを使うと思うが、上越市でも、いかに見てもらう人を増やすかということが非常に大事だと思う。例えば、この食材を食べてみたい、ここの食材を買ってみたい、そういったことに興味を持っていただくのが大事なのではないか。
- ・ 生産者の方々が、どんな方法で、どんな思いで作っているのかを見てもらうことで、若い人や30代・40代・50代の人々にも興味を持っていただける。それが販売に繋がり、消費に繋がっていくのではないかと考える。SNSを上手に利用することは良いのではないかなと思う。

【松井委員】

- ・ 食育の情報があれば上越市で流すことができると言っている。ただし、非営利のものであれば流せますよと言っている。私のスポーツクラブで、何月何日に栄養教室を開催しますとかお知らせしたりする。委員の方もぜひ、市にそういうことをお知らせして、SNSに載せていけば良いのではないかなと思う。

【事務局：佐藤課長】

- ・ 食育の掲示板は、令和3年度に皆様から意見をいただいて設けさせていただいたが、なかなか限られた情報しか載せられていないというのが悩みである。
- ・ SNSで言うと、上越市の農林水産部のインスタグラムがあり、食育だけでなく農林水産関係の色々なこと、イベントや農家さんの紹介もホームページでしているが、それでも誰にでも見てもらえる状況ではなく、フォローしている人

でないとインスタグラムの情報が入ってこず、自分からホームページを見にいかなければ、情報が入ってこないという状況である。私たちの発信しているものに関心を持ってもらうのが大きな課題だと思っている。

- ・ 個人的なことで言うと、地産地消推進の店の飲食店の店主は食に対する思いが強く、食材を見て、この食材の向こうにいる農家のことを思い描きながら買っているというところからスタートして、YouTube で飲食店と農家の対談を載せたり、その時に農家の思いを聞いて、YouTube で発信したりしている。
- ・ 私どもは、そこまでできていないが、積極的にいろいろな地産地消推進のお店の方や農家さんでも積極的に発信されている方がいるので、そういった方々の取組をぜひ皆さんにも広めたいと思っている。
- ・ 何とかしていろいろな農家さんの思いや、飲食店が野菜やお米、お魚の素材を大切にしていることを通じて、地産地消を推進できればと思っている。
- ・ それから食文化という点で言うと、クックパッド等で地元の料理も紹介しているが、個人的には学校の給食は素晴らしいと思っている。自分の家庭では鯖缶の料理は作っていなかったが、娘からどうしても作ってもらいたいものがあると言われて、何かと聞いたら、じゃがいもと玉ねぎと鯖缶の味噌汁だという。学校の給食でとても美味しかったので、どうしても作ってもらいたいということで、学校給食のレシピ本を図書館で借りて見ながら作ったこともある。
- ・ 現状として家庭では、食文化の継承、例えば山菜を使った料理をすることなどは、本当に難しいことなのだと思う。そういった中で、学校の給食が 20 代になった娘にその地元の食文化として、少し根づいているという点で、学校の給食は本当にありがたいと思っている。私たちも微力ではあるが、食文化の継承に、積極的に取り組みたいと思う。

【光永会長】

- ・ 情報のネットワークはインスタグラムなど SNS にあるわけだから、給食の献立を家で作ってみるといのは、とても良いことである。ただし、全ての家庭で実践できるわけではなく、うまくいくパターンを活用し、問題点を洗い出して改善していく、また、情報を豊富にストックしてあるものを活かしていくことが重要であると思う。

【秦野委員】

- ・ J A えちご上越としては、豊かな食文化と多様な農業の繋がりを次世代につな

げるため、様々な食の教育活動に取り組んでいるところである。私が営農部農業対策課で取り組んでいる食育活動について、少しお話をさせていただく。

- ・ まず1つ目であるが、JAえちご上越では、上越市教育委員会を通じて、出前講座プログラムをご案内している。当JAは、上越市だけではなく妙高市、そして、3月からは糸魚川市も含まれている。中山間地も非常に多く、食料の供給だけでなく、国土の保全や豊かな景観形成など、多様な多面的機能を持っているが、なかなか次世代につなげることが難しい。まず、深刻な過疎化や高齢化などがあるので、それらを踏まえて小学校にご案内をさせてもらい、お話をする機会をいただいている。
- ・ 4月からご案内を始め、現在56校から利用いただいている。また、そこから派生し、各地区の子どもを対象にした団体や公民館、その他上越市内で活動している団体からも申し込みをいただいている。さらに、JAグループの上部団体であるJA新潟中央会が、「シャカシャカおにぎりづくり」を推進している。
- ・ 先ほども、子どもの朝食の欠食などの課題が挙げられているが、JAグループとして、幼児期からご飯食に親しんでもらい、米どころ新潟に生まれ育つ子どもたちに、ご飯食を中心とした正しい食習慣を身につけてもらいたいと考えている。そのため、新潟県庁を通じて「シャカシャカおにぎりづくり」を各保育園、幼稚園、認定こども園へ案内している。上越市では、現在57園から申し込みをいただいている。
- ・ そのうち、22園から、ご飯食の大切さについてお話してほしいという要望があり、少しだけお時間をいただいて、これから10月、11月、12月初めにかけて、訪問する予定になっている。
- ・ また、JAでは組合員組織があり、私が管轄しているところに女性部（昔の婦人部）がある。現在、900名ほどの部員が所属しており、年代は70代が中心となっているので、郷土色に関しては得意な方も多くいらっしゃる。
- ・ 小学校から郷土食を子どもたちに教えてほしいという依頼が来ることもある。しかし、女性部といっても一般家庭の主婦が中心なので、学校の先生から分量や時間について質問されると、なかなか答えることが難しく、郷土食の継承の難しさを感じている。最近少し不思議に思うことが、小学校の先生から依頼がきたときに、例えば、2月に笹団子を作りたいと依頼されたが、2月に笹はない。しかし、女性部の皆さんはとても意気込みがあり、保存している方がいる

ので、かき集めて対応した。また、夏の暑い時期に豆腐作りがしたいと依頼がくることもあり、そういったことも時代の変化と感じているが、JAとして協力できるところは対応している。

- ・ 会議の中で様々な課題を挙げられる中、JAがどこまでお力添えできるかはわからないが、できる限りJAとして地域に貢献をしていきたいと思っている。

【光永会長】

- ・ 小学校に行かれるということだが、先生がちょっとというのは私もよく感じることもある。
- ・ 出前講座に年間10回ぐらい行くのだが、行ってちゃんと対応してくれる先生もいれば、クラスの取りまとめやコミュニケーションがうまい先生はよいが、本人が出てこないような先生もいて、いわゆる丸投げという形で、訳の分からない子どもたちの中に1人だけ教員免許を持ってない人間が授業をさせられるといった、理解に苦しむ状況がある。多分、さっきの笹団子や豆腐づくりについても全然理解してないと思うので、これは教育大学の問題でもあり、責任があると思う。大学に戻ってからそれなりの人に伝えたい。
- ・ ご飯食の大切さをお話しされているとのことだが、具体的にどのような話しをされるのか。

【秦野委員】

- ・ JA新潟中央会で今回、「朝ご飯は体の目覚まし」という紙芝居を作成し、「ごはんちゃんくん」というキャラクターがいる。その「ごはんちゃんくん」が、パン屋さんがいたら申し訳ないのだが、朝食はご飯とパンのどちらが良いかというテーマで、ご飯が良いといった内容で進んでいく紙芝居となっている。

【光永会長】

- ・ JAの方針に沿ったキャラクターがいるということか。現在、小学生で共稼ぎの家が多くあるので、朝食に何食べてきたかというほとんどがパンであり、味噌汁を食べる家はほとんどない。
- ・ 味噌汁は、晩ご飯に食べる家庭がほとんどだが、朝食を食べないよりは良いということで話をしているので、そのキャラクターに頑張ってもらいたい。

【金子委員】

- ・ 日頃は、セブン-イレブン・ジャパンの行政の窓口として対応している。先ほどの話のように、私もセブン-イレブンで取り組んでいる環境問題や食品ロス削

減の対策について、小学校や中学校で出張授業を行っている。

- ・ 多少、宣伝にもなるが、再来週から新潟県では新潟フェア、北陸3県では北陸フェアを開催する予定である。目的は、やはり地産地消の推進であり、弊社としては優良な国産原料の確保、これに繋がるということになる。
- ・ 例えば、北陸フェアということで、石川県金沢市の加賀野菜が取り上げられているが、生産者がどんどん減少している。加賀太キュウリや源助大根の消費量が地元でも減少しており、生産量も減少している。そこで、我々としてはそういった材料を使った商品を開発し、その味については地元の優良な料亭である加賀屋さんに味付けの方法を教わり、富山県や福井県といった隣接県にも幅広く販売し、消費量を少しでも増やすためのお手伝いをしていきたいと考え、そのようなフェアを開催している。
- ・ また、未利用食材やこれまで廃棄されていた食材について、農家の方々が費用をかけて廃棄していたものを、我々としては少しでも安い金額で仕入れ、それをどのように商品化するか考えている。その過程を、先ほどの出張授業などで小学生に理解してもらうため、生産者訪問という形で、生産者の方に直接伺いマスコミも呼んで、例えば、子どもたちがニラの葉っぱを生で食べて、「ニラの葉っぱがこんなに甘くて生で食べられるのだ」と感動している様子をマスコミに取材してもらい、広く一般の方に知ってもらうという取組を、本業を通じて行っている。
- ・ 私たちは、いくつかの会議に参加しているが、例えば農家の生産者の現場で似たような問題が発生している場合、どのような問題があるのかという情報をいただくことで、我々の仕組みを使って少しでも解決に導けるのではないかと考え、日々情報を収集している。
- ・ 今回の会議の中でも、いろんな啓発物やPR、SNSなどの話があったが、上越市には約40店舗のセブン-イレブンあるため、多少の啓発活動の協力は可能であるので、何かありましたらお気軽にお声がけいただければと思う。
- ・ 最後に、朝食をとろうという話があったが、主菜、副菜のバランスの良い食事をとるのが最も望ましい。しかし、全く朝食をとっていない子どもたちには、まずパン1個でも食べて、学校に行くという習慣を持つことから始める必要がある。セブン-イレブンに並んでいる商品、例えば冷凍のおにぎりを販売するなど、子どもたちが朝食をとりやすい環境づくりを手助けしたいと思いながら、

本日の会議に参加させていただいた。

【光永会長】

- ・ また、違った立場から発言いただき、どうもありがとうございました。
- ・ 環境問題や食品ロスには会社にとっても重要な課題である。40店舗あるということで、SNSよりもむしろ年代を問わず影響力があると感じている。コンビニの数が、そのイメージを強くするのではないかと思う。
- ・ 農業の課題や問題について対応していただけるとのことなので、上越市の私も農家の方々とお話する機会が多いが、皆さん様々な問題を抱えていると聞いている。それが解決策になるのではないかと期待している。

【信田委員】

- ・ 昨年、金子委員から声をかけていただき、農家さんからのロスがあったら教えてほしいと言われた。私は、数年間、JAえちご上越のあるるん畑の中で、小ロットのロスに対処しているが、大量のロスが発生した場合の対応については考えなければならない。
- ・ 例えば、今年6月に雨の影響でトマトが日照不足になり、リコピンが生成されないトマトを1トンほど預かる事案があった。結局、時間が間に合わず、連絡しても対応するまでに時間がかかり、腐って使えないということが起きると想定された。そのため、我々は学校の授業の課題にしたり、知り合いの飲食店でアイスを作ってもらったりして、何とか多くの人に協力をお願いして対処した。このような場合、連絡するタイミングをぜひ教えていただきたい。

【金子委員】

- ・ やはり、食材のボリュームが必要であり、突発的に発生する廃棄物の買い取りは、クオリティコントロール上の問題もあるため、なかなか難しい状況である。
- ・ 我々が得意としているのは、毎年必ず発生するものの処理である。例えば、枝豆のさやの中に1粒しか入っていないものや規格を揃えるために切捨てられたニラの先端部分などである。これらは予測可能な量であり、年間を通じてある程度の量が見込めるため、相談に乗りやすい。

【事務局 佐藤課長】

- ・ この会の始まる前に金子委員と直接お話させていただいたが、おそらく1人の農家というよりは、農協のような規模のある団体での対応になると感じている。例えば、出荷規格に合わないために破棄されるものや、価格的に合わないため

に破棄されるものが大量に発生する状況である。こうしたものをコンスタントに供給できるような商業ベースが必要であり、農協などと話し合ってみる価値があると考えている。

【古岩委員】

- ・ 上越地域農業者グループひかりという、上越地域の20代から30代ぐらいの農業者のグループで、今年、副会長を務めている。
- ・ 出身は千葉県の千葉市で、上越に来てからまだ4年目なのだが、新規就農者として谷浜地区で稲作を行っている。
- ・ 3年間は師匠のもとで研修を受け、土地を借り受けてというか引き継ぎをし、現在は自営業で行っている。地元にはベテランの個人農家も多く、農協や市役所からのサポートを受けながら、多くの人々の話を聞き、農業を続けているという立場である。生産者として、食品を扱う中で、野菜やお米に近い立場にいる人間だと感じている。今回の食育に関して、消費者と直接対面で関わる機会は少ないが、SNSを通じてお米の直売を行っている。県外、特に首都圏の方々から多くのお声掛けをいただいております、これまでスーパーでお米を買っていた人たちが、たまたま知り合い、SNSを通じて生産者の活動を見ることで、顔のわかる人間からお米を買うことに非常に魅力を感じているようである。すると、何気ないただ野菜を炒めただけの農家のご飯でも、非常に興味を持たれてリアクションをしてくれる。私が住んでいる場所がたまたま信田委員のレシピ遺産の山口ユキさんの近所であり、手料理をいただいたり、地元の食文化に触れたりする機会が非常に多い。SNSを通じて、食文化や伝統料理、特に朝ご飯に対する関心が高く、家庭の母親が私のお米を購入してくれるということが多いため、非常に興味を持って見ていただいている。
- ・ 現在、生産面で手一杯で手探りの段階ではあるが、皆さんの知恵を借りながら、農家として情報発信を行い、これからも頑張っていきたいと考えている。

【光永会長】

- ・ 私はほとんどSNSを使用しないし、YouTubeも1分も見ない。しかし、最近テレビで佐渡島を若いお兄さんがPRをしているのを見た。それを見た小学生が非常に興味を持ち、グループで佐渡島へ旅行に行くという番組だった。これは、YouTubeの影響力や若者の力と言え、小さい子を引っつけることができる。
- ・ 現在、SNSでお米を購入してくださるのはやはり若い方が多い。そのため、

SNSを通じて新たな一面を開発することができればと思う。また、レシピ遺産の山口さんの近所にお住まいであることは非常に幸いであり、ぜひご活躍いただきたい。

【信田委員】

- ・ 改めまして、直江津駅前で27年目を迎える「YAGAIYA」というお店を経営している。居食屋で約12年間営業し、その後「YAGAIYA」というシンプルな名前に変更し、事業を承継した店舗を運営している。
- ・ 飲食店経営のために東京で修行を積み、上越に戻ってきた。まずは、生産者と繋がることを目的にし、地元の野菜を使用するという点で上越では先駆けであったと思っている。大きな店舗を除けば、個人店としては先駆者と言えると思う。その当時に知り合った生産者たちと共に事業を拡大し、多店舗展開に一時成功したが、コロナ禍により急激に困難な状況に直面した。未知の時代に入り、農家さんから野菜やお米を買えない状況になったとき、自分の無力さや申し訳なさを感じつつ、彼らの野菜やお米をどのように販売するかを考え始めた。
- ・ さきほど話した、こども園の給食を手がけるという意思決定を行い、従業員たちと共に、「生産者のロスを何とかしたい」という目標にシフトした。JAえちご上越のあるるん畑に協力を得て、工場の展開を進めることができた。
- ・ スタッフの意識を高めるため、12年前から農家を訪問する取組を行っている。また、「ローカルプレス」というサイトを作り、さまざまな生産者を紹介している。勝手にやっているので認知度は低いと思っていたが、県外からのお客様から多くの連絡をいただいております、最近では大手企業のバイヤーからも農家の紹介を求められるようになった。
- ・ 皆さんご存じのとおり、全国的に生産者が不足している状況において、上越はまだ園芸が未開発地だと誤解される業者が多い。ほとんどの園芸農家は成長過程にあり、それほど質の高いものを提供できる立場になく、また、大量ロットでものを生産できる圃場を持っていないのが現実である。
- ・ 私が、現在考えていることとして、高田農業高校で講師を務めさせていただくことにより、新たな生徒たちを農業業界や飲食業界に送り込むという仕事をしたいという思いがある。また、先生方の意識が色々とあったので、さまざまな場所に派遣されることもいとわない。そして、上越市の食育に関する関係ではお声がかかれば、喜んで協力している。

- ・ 現在の活動はこのような感じであるが、食事をとらない、特に朝ご飯を食べない子どもたちについての啓発や対応について考えなければならない。園児に対しては大人が何とかしなければいけないので、そのための仕組みを構築していただきたいのが1つ。
- ・ また、大人、特に50代の男性については、健康管理の方法がわからないという問題がある。その情報は検索してもなかなか出てこない。そして、何と、飲食店でお酒を飲みながらカウンター越しに、「俺はどうやったら健康になれるのか」と相談されることが多いが、私が12年間カウンター越しにアドバイスすると客数が減り、店に来る回数も減るということがおきている。料理教室を開いて家事を教えると、またお客さんが減ってしまう。自分で料理が上手になったという報告だけが寄せられる。
- ・ 飲食店をこれ以上経営していてもしょうがないなと感じながらも、まだ続けている。ただ、近所の飲食店の話を聞くと、お客さんの数が減少している。
- ・ 圧倒的に新型コロナウイルスや地震の影響を受けて、事業継続は難しいという考え方もある。そのため、先ほどの食文化の受け皿である調理師や、学校教育で教えきれない、意識が高くなった保護者のための講座などを展開してほしい。飲食店の中には、時間に余裕がある方もいるため、そうした講座を通じて活躍の場が広がり、わずかながらも収入を得ることができるのではないかと考える。
- ・ 全体的な改革をある程度起こさないと、限界集落となるのは、あっという間に起きると思うので、10年以内に何らかの結果を出さなければ、飲食店のイベントをやる意味もなくなる可能性がある。
- ・ まだ、数があるうちに手を打ち、事業者に夢ややる気を与えるような取組を展開したらいいのではないかと思う。
- ・ 小中高に関しては、私のような変わった先生が来ると、必ず話を聞いてくれ、親にも伝えてくれる。それで、だめなら自分でやるという意識改革が起こりやすい。学校単位で対応が難しければ、外部講師として、食に詳しい方を招くことも大事である。例えば、井部委員は非常にわかりやすい話をされるそうなので、そういった方を講師として招くのもよいと思う。
- ・ また、幼児教育に関しては、まず大人の改革が先である。成人された方は、無印良品でイベントをやっても、限られた方しか来ないため、強制ではないが、一般向けの講座的な取組がよいと思われる。特に男性はプロセスがわかれば実

行することが多いので、具体的な案として早めに取り組んでいただきたい。

【健康づくり推進課：大石主席栄養士】

- ・ 信田委員からご指摘いただいた男性向けのアプローチについてだが、「上越健康プラス」について説明する。私たち、健康づくり推進課の保健師や栄養士が企業に出向いて健康講座を実施し、健診結果から体の状態や食事の方法について説明しているが、保健師や栄養士の人数が限られており、対面での講座に加えて、「上越健康プラス」を昨年の10月から試行的に始め、今年の4月から本格的に取り組んでいる。
- ・ お手元のチラシにも記載しているが、企業単位で参加していただき、市内の企業ごとに歩数を競い合うことができる。また、従業員ごとに競い合うことも可能である。
- ・ ウォーキング機能を持つアプリは多数あるが、マイナポータルとマイナンバーを持っている方は連携させ、自動的に健診結果がアプリに反映できるのがひとつの特徴である。例えば、LDLが高いとか、中性脂肪が高いといった簡単なコメントも出すことができる。また、食習慣についても簡単な説明が自動的に表示されるアプリとなっている。このように、働き盛りの皆さんの視点を変えた取組を進めている。
- ・ もし、よろしければ、個人単位でも会社単位でも構わないので、チラシをご覧ください、参加していただければ幸いである。
- ・ 参加条件は、18歳以上の上越市民であるが、企業単位であれば本社が市内にあれば、妙高市や糸魚川市、市外の方でも参加可能である。参加費は無料であるが、通信費は自己負担となっているので、ご了承いただきたい。

【丸田委員】

- ・ 栄養士会というより、小学校の栄養教諭としてお話しさせていただく。
- ・ 上越市では、学校の食育として毎日の給食を活用している。
- ・ 上越市では毎月、食育の日があり、今年度は日本各地の料理を、今月は何々県といった感じで提供し、さらに、ふるさと献立も実施している。JAえちご上越に協力していただき、上越の農産物や特産品「メイド・イン上越」のもの、発酵のまち上越の発酵食品などを使用し、郷土料理なども提供し、子どもたちに親しんでもらうようにしている。
- ・ 日々の指導では、子どもたちが食に興味を持ち、楽しく食べて欲しいというこ

とに気をつけている。一昔前のような無理やり食べさせることや、怒って「こんなもの残しちゃだめ」という指導ではなく、少しでも食べられたら、もう1口でも、ひとなめでもできたらすごく褒めてあげる、「頑張ったね、偉いね」と言って子どもたちが食べることを好きになってもらうようにしている。

- ・ 楽しく食べるためには、マナーにも気をつけて欲しいし、今日食べている食材がどんなものであるか知った上で食べて欲しいということも考えており、実物を持っていたり、写真を使って紹介したりしている。
- ・ 給食以外では、例えば授業で生活や総合の時間に、野菜やお米を育てたりすることから、子どもたちの興味が広がっていく。また、5、6年生の家庭科の時間でも、栄養素のことや、朝食や1食分の栄養バランスのとれた献立を考える時間があり、その中で食べることの大切さを啓発している。
- ・ 先ほど、先生たちがどうして突発的なことが多いのかという話があったが、先生方は4月や5月にその1年間の総合授業などの計画を立てている。その中で、先生たちの想像を超えて子どもたちから「こんなことしたい」という声が出ることもある。それに先生たちが応えたいと考え、プロの皆様に依頼するために、少し変な時期に依頼が入ってしまうのではないかなと思う。
- ・ 現在、大学で教職を目指して勉強している方々は、光永先生たちからいろいろ教えていただけると思うが、現職で働いている方々や、これまでそのようなチャンスがなかった方々については、現在、ICTの活用や英語の指導など、多くのことを求められているため、先生方は、やることがいっぱいあり、パンクしている状態である。そのため、対応が不十分な場合もあるかもしれないが、寛大な目で見ただけだと嬉しいなど、同じ学校現場で働くものとして、感じている。
- ・ また、個別指導にも力を入れており、今年、春日小学校では5年生を対象に、20%以上の肥満度のある児童に対して個別指導を行った。まず、保護者の方々への説明を行い、春日小学校は市内で最も児童数が多いため、5年生だけで15名ほどの児童が対象となった。2学期も引き続き指導を継続したいと考えているが、肥満のある児童は、他の学年にもおり、私自身も兼務している他の2校にも必要な児童がいる。しかし、全ての学校まで手が回らないのが現状である。
- ・ 市でも小学5年生と中学2年生を対象に血液検査を行い、その後に保健師や栄養士から指導を受ける機会があるが、肥満の指導は1回では効果が出にくい

め、継続的な指導が重要であると考えている。そのため、何か継続的に肥満指導を行える手だてがあると良いと思っている。

- ・ 最後に、佐藤課長から給食のレシピ本について話があったが、これは宣伝となるが、この度 10 年ぶりに第 2 弾が発売されることになった。まだ、発売はしてないが、これから出る予定なので、ぜひ、手に取っていただければと思う。

【松井委員】

- ・ 上越市総合型スポーツクラブネット事務局長を務めている。
- ・ 上越市では、昨年から中学校の部活動の休日の地域移行が始まり、地域クラブが誕生している。上越市スポーツ協会、そして私が所属している上越市総合型スポーツクラブネット、通称上越 S C ネットが運営をしている。
- ・ 令和 8 年度から国では、平日の地域移行を始めようという機運がある。しかし、上越市では平日の放課後に指導できる指導者が不足しており、大人の事情もあり、平日の夜に運動や文化活動が増加するのではないかと予想している。
- ・ このような状況になると、食事の取り方をしっかりと指導する必要があると思われる。栄養士の丸田委員が述べたように、2 年生、5 年生で引っかかってくる子どもたち、その中には平日の夜に運動しているケースも多い。この状況が中学生にも波及しないかと危惧している。
- ・ 私は、NPO 法人三和スポーツクラブのクラブマネージャーも務めているが、ここでは平成 29 年度から三和中学校と連携して部活動支援を行っている。その中で、まずは自分の体をしっかり作ることを重視して、運動指導やトレーニング方法の指導を行っている。また、強い体を作るためには、アスリート栄養士からの指導も重要であると考え、ビックスワンの中で務めている栄養士を招き、子どもたちに深い知識を伝える取組を行っている。この 2 本立てのアプローチをしている。
- ・ その中では、食べるタイミング、何を食べたらいいいのか、量といったことを学ぶ機会を必ず設けており、これが一層必要になると感じている。
- ・ もう 1 つ、私は民生委員も務めている。三和区にあり、実はセブン-イレブンから歩いて 2 分の非常に良い立地にあり、皆さん、以前はご夫婦で住んでいたが、現在は一人暮らしの方が多い。
- ・ 孤食として、セブン-イレブンに行っておかずを買い、自分でご飯を食べる。こういうことが可能であるが、少し離れた場所では買い物難民が出てきている。

今、セブン-イレブンの方にお願ひして、移動販売車が清里から来ていただいております、非常に助かっている。買い物の依頼を受けなくてすみ、人から頼まれるとどんな物がいいか、特に生鮮食料品は迷うが、セブン-イレブンで自分の目で見ても自分で買うことができるのは非常に嬉しいことであり、助かっている。

- ・ 高齢者の教室では、フレイルという問題も出てきている。痩せていても病気になるということもあり、私は話を聞く中で、お豆腐だけで過ごしている人も多いことがわかった。お肉や魚、特に生の魚は手に入らないため、肉や魚を食べない高齢者が多くいる。上越市には多くの高齢者がいるので、指導が必要であると考えている。年々、様々な問題が増えているが、自分の通る道と思って整備していきたい。

【光永会長】

- ・ 異なる立場からスポーツクラブや民生委員としての活動を通じて、コンビニの果たす役割は、近年非常に大きいと私も感じている。
- ・ だからこそ、うまく機能すればより良い方向に進むのではないかと考えている。

【佐藤（誠）委員】

- ・ 委員の皆さん、本日は貴重なご意見をたくさん聞かせていただき、ありがとうございました。私個人的にも非常に勉強になった会議であった。
- ・ 皆さんの話をお聞きしながら、市として今後の取組の方向性について少しお話をさせていただく。この食育の根拠は、食育基本法であり、これは、平成17年に制定をされたものである。法の中では、どうやら人々は毎日の食の大切さを忘れがちではないかとうたわれている。
- ・ 法律が制定されてから20年近くが経過しているが、果たしてどうか。食の大切さに対して、今日ここにお集まりの皆さんは意識が高いと思われるが、一般的にはどうなのだろうかというふうに振り返ると、朝食の欠食や先ほど紹介されたように、子どもは食べればパンなどでも食べるが、食べなくても別に問題ないという状況がある。この20年間の取組を振り返ると、なかなか難しい。
- ・ 要は、国が「食は大切です」と訴え、学びましょうと呼びかけても、受け取る側がその重要性を理解しない限り、物事は1ミリも前進しない。我々、市役所としては、皆さんの専門的なご意見をいただきながら、市民が自ら考え、行動できるように食に対する意識、知識や仕組み、そういうものを育てていくこと、これこそがまさに食育の目指すべき姿だと思う。

- ・ 今日、事務局は農林水産部が務めているが、他にも社会教育課、教育委員会、幼児保育課、健康づくり推進課など多岐にわたる部局が連携をしながら進めている。
- ・ そして、食育の根幹は食べることにあると思う。清水委員が述べたように、我々の体は食べたものでしか構成されていない。3日前に食べたものが今の我々のエネルギーとなっているのだとすれば、食材に対する意識というのは強く持つ必要がある。生産と消費が離れているという話もあったが、農林水産部が食育に関わっている意味として、生産者と消費者をもう少し近づける意識も必要だと思う。
- ・ 今年の7月に農林水産省が「我が国の食生活の現状と食育の推進について」という調査を実施した。この調査によれば、コロナ禍前後で農林漁業体験をした国民の割合が約2倍に増えている。信田委員がお話の中でコロナ禍での経営的な困難について触れ、多くの苦労があったと察するが、その一方で食に対する意識が変わった可能性があるならば、今は潮目かもしれない。
- ・ このようなチャンスを見逃さずに、食への意識をしっかりと啓発していく必要があると感じながら、皆さんのお話を聞かせていただいた。
- ・ あとは、井部委員から食の地域らしさというお話があった。信田委員も地域の調理法をレシピにして発信されていることを存じ上げている。非常に心強い取組であると感じている。何より、この地域の気候風土、調理方法、盛り付け、そして、地域の歴史と文化、まさに時間が紡いできたものである。
- ・ これがなくなってしまうと、もう二度と取り返すことができない。食育とは異なるかもしれないが、食文化をしっかりと守り、次の世代に育てていくことも大事であると考えている。
- ・ ヨーロッパにおいては、その地域特有の食を求めて世界中から、味覚を堪能するために人々が訪れるという話を聞いている。
- ・ この雪国上越の発酵文化や、東と西が交じり合う地域ならではの食文化があるのであれば、観光として外からお客様を迎え、この地域を楽しんでいただき、外貨を落としてもらい、それが地域内で経済循環として回っていく取組も重要であると考えている。少し食育とは異なるが、食というキーワードで各部局が取り組む必要があると思うので、引き続き皆さんのご意見を伺いながら、取り組んでいかなければならないと感じながら、今日の会議を聞かせていただいた。

【光永会長】

- ・ 私の自己紹介をしていなかったのので、一応自己紹介させていただき、終わりにしたいと思う。
- ・ 光永と申します。31年前に上越市に来て、それ以来ずっとこちらで過ごしているため、人生で一番長く住んでいる場所が上越市である。私はもともと専門の研究をしていたため、教育大学とは全く縁もなく、何の関係もない。教員免許を持っていないので、細々とやればいいのかと欲していたが、気が付いたら二流どころか五流ほどの研究者になってしまった。研究者としてはもう駄目な状況であるが、ただ1つ、食について言えることがある。
- ・ 私には子どもが2人いるが、2人とも今は首都圏にいる。20年間ずっと朝ご飯を作り続け、自分なりに味噌汁とご飯、それなりのおかずを用意し続けた。なぜかという、自分自身は卒業するまで食生活を気にしたことがなく、健康状態が非常に悪かった。
- ・ 同じことを子どもたちに、繰り返してはいけないと感じ、20年間ひたすらに、自分の生活はさておき、子どもたちの食生活だけは最善を尽くした。一番、ありがたいのは味噌であると思う。上越に来て、大きな味噌屋さんが5つあるので、その5つの味噌屋をローテーションで使用し、旬の具材を入れた味噌汁を作り続けた。その結果、子どもたちの性格はともかく、胃腸だけは丈夫に育った。胃腸が丈夫であると、大概のことがクリアできる。メンタル面でも辛いことがあっても何とか切り抜けることができると感じる。何人かの方が食の重要性を指摘されていたが、本当に想像以上に大きな影響力があるものだった。
- ・ それから、今までいろいろとデータの説明があった。国でも色々と取り組んでいるが、食育に興味・関心があるかというアンケートを毎年実施している。しかし、結果はほとんど変わらない。実際、その食育に関心があるかどうかという設問に対して、おそらくずっと75%程度から、変わってないと思う。このことは、要するに4人に1人、あるいは5人に1人が食べることに全く興味・関心を持っていないことを示している。
- ・ そこをどう対応するかによって、今出されている上越市のデータの状況も変わるのではないかと考える。だからこそ、最初に羽尾委員が言われたように、食育に積極的でない人々をどうやって興味・関心を抱かせるかが重要である。また先ほど、信田委員が言われたグミのお話があったが、そのようなお母さんに

対して、どのような説明をすれば興味・関心を抱かせることができるかが、すべてのデータに影響を与えるのではないかと思った。その点をお伝えし、終わりにさせていただく。

- ・ 時間となったので、意見交換は終了する。本日、予定された議事は終了した。議事運営に際し、皆様のご協力に感謝する。進行を事務局にお返しする。

(6) 閉会

【事務局：伊藤副課長】

- ・ 以上で、令和6年度第1回上越市食育推進会議を終了する。

8 問合せ先

農林水産部農政課

TEL：025-520-5747

E-mail:nousei@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。